
スターウォーズ とある戦術ドロイドの一生...？ 番外編

トッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スターウォーズ とある戦術ドロイドの一生…？ 番外編

【Nコード】

N0636X

【作者名】

トッキー

【あらすじ】

もし、この作品の主人公率いる部隊が、何かの拍子で色々な作品に登場し、コラボしてしまったら…？

そんな妄想を、お送りしていきたいと思います！

プロローグ（前書き）

番外編です！！

この内容が本編に生かされるのかは…不明です！！
（多分生かされないかと思えますけども…）

そして…妄想万歳！！

9月26日 誤字修正しました

ブローグ

ドゥークー伯爵が殺され、パルパティーン議長の誘拐も失敗。そして艦隊だけでなく地上部隊も多くを喪失し、コルサントへの奇襲は「失敗」という形で幕を閉じた。

俺が率いていた艦隊も、アナキン・スカイウォーカー率いる部隊によって壊滅させられてしまった。

しかし敵の僅かな隙を突いて、何とかハイペースに逃げ込む事で脱出に成功し、全滅は免れた。

結果から言えば、「尻尾を巻いて逃げ出した」訳である。

また全滅を免れたと言っても、生き残ったのは「ワークーズ・ボエジ」以下数隻だけとなってしまったのである。

他の艦は知らない。自分達が逃げ出すので手一杯だったからだ。

しかも旗艦以下、全ての艦が修理を必要とする程の損害だった。

…いつその事、コルサントで破壊されたかったと思うのは俺だけでは無い筈である。

しかしそんな事を考えていた時、突如として航行システムを担当していたバトル・ドロイドから、報告が上がった。

しかもその内容は、とても信じられるものではなかった。

「大変です、司令官！！ハイパースペースに何か異常が見られます！！」

「何ダト！？」

おかしい…スターウォーズではそんな設定等は無かった筈…。

一体何が…？

「司令官、ハイパースペースに歪みが！！…大変です、艦隊が歪みに引き寄せられています！！」

「何トカシテ、振りキレナイカ！？」

「無理です、振りきれません！！」

そんなやり取りをしている内に、歪みに引き寄せられていった。

そしてその歪みに「ワークス・ボエジ」が触れたと思ったら、突如として光が艦隊を包んでいった…。

プロローグ（後書き）

さあ始まりました、番外編！！

主人公以下、部下や艦隊がどのようにして話を展開させていくのか！？

また主人公はどうなってしまうのか！？

（ハッキリ言って、物凄く不安です…）

第一話（前書き）

とうとう始まりました、番外編第一話。
今回はその作品とのコラボです。

オリジナル入ってます

第一話

トンネルを抜けるとそこは雪国でした…な訳は無い。

光を抜けたと思ったら、そこはまた宇宙だった。

だが、ただそれだけではなく、なんと目の前には二隻の宇宙船が存在していたのだ。

一隻は長さ3000メートルはあろうかと思われる、正体不明の船だった。

しかしもう一隻の方が問題だった。

その船はアクラメーター級アサルト・シップ——銀河共和国の物であつた。

それが正体不明の船に接舷していたのである。

敵——艦内の空気が変わるのが分かった。

「司令官!!」

「全艦シールド展開!全砲、撃ち方用意!!全ファイター、出撃用意!!」

「ラジャー、ラジャー!!」

目の前の敵艦に対し、瞬時に攻撃用意の命令を発した。

手負いとはいえ、こちらは全力でもう一回戦やれる位の火力を残していた。

それを向こうが知らなくても、こちらの艦の数を見て無視する事は出来ない筈である。

いくら向こうにもう一隻船があろうとも、だ。

「攻撃用意!!」

「ラジャー、ラジャー!!」

そうして緊迫した状況の中、敵を突破する為に正体不明の船とアサルト・シップに近づいていった。

しかし、そこでふと気付いた。

敵が全く攻撃してこないのである。

いくらここまで近づいたからと言って、そんな事あり得るのだろうか？

まさか…。

「司令官、もしかして…」

「アア、恐ラクハナ…」

ここまで敵艦隊が近づいているのに、いくら何でも無反応とはおかしい。

あの二隻、ひょっとしたら——無人なのかもしれない。

「艦長、偵察ドロイドハアルカ？」

「はい。まだ十二、三台は残ってます」

「六台ホド、偵察二向カワセロ」

「ラジャー、ラジャー」

そして、偵察ドロイドが二隻に向かっていくのを見て、俺はこれらの事を考えていた。

もし、何も無いようならあの二隻を鹵獲していけばいいし、何かあったのなら撃沈してしまえばいいだけである。

しかし、俺は失念していた。

正体不明の船の名前が、アサルト・シップと重なってしまい、よく確認出来なかったのだ。

また正体不明の船を何処かで見た事がある筈なのに、それを記憶の片隅に放っておいてしまった。

この時、偵察ドロイドの一体を船名の所に向かわせれば良かったのだ。

その船の名前は、こう書かれていたのである。

「
U
S
M

A
U
R
I
G
A
?
」と
…。

第一話（後書き）

はい！船の名前を見てピンと来た人はいますか！？
もしそうなら、凄いです！！（結構マジで）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0636x/>

スターウォーズ とある戦術ドロイドの一生...？ 番外編

2011年10月9日15時44分発行